



TITLE:

肺癌を原発とする転移性陰茎腫瘍 の1例

AUTHOR(S):

武縄, 淳; 佐々木, 美晴; 上野, 陽一郎; 秋山, 文弥

CITATION:

武縄, 淳 ...[et al]. 肺癌を原発とする転移性陰茎腫瘍の1例. 泌尿器科紀要
1987, 33(8): 1281-1284

ISSUE DATE:

1987-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119221>

RIGHT:

肺癌を原発とする転移性陰茎腫瘍の1例

市立静岡病院泌尿器科（部長：佐々木美晴）

武 縄 淳*・佐々木 美 晴

市立静岡病院胸部心臓血管外科（部長：秋山文弥）

上 野 陽一郎・秋 山 文 弥

METASTATIC PENILE TUMOR FROM LUNG CANCER:
A CASE REPORT

Jun TAKENAWA and Miharu SASAKI

*From the Department of Urology, Shizuoka City Hospital
(Chief: Dr. M. Sasaki)*

Yoichiro UENO and Fumiya AKIYAMA

*From the Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Shizuoka City Hospital
(Chief: Dr. F. Akiyama)*

A 70-year-old man, who had squamous cell carcinoma of lung, complained of urethral pain. Physical examination revealed an induration of the bulbous urethra and a month later corpora cavernosa were involved. Biopsy was performed and pathological diagnosis was metastatic penile tumor originating from squamous cell carcinoma of lung. Several days after the biopsy the patient died of pleuritis carcinomatosa.

Metastatic penile tumor is a rare disease and only 87 cases have been reported in Japan. We review the literature on metastatic penile tumors.

Key words: Metastatic penile tumor, Squamous cell carcinoma, Lung cancer

緒 言

転移性陰茎腫瘍は稀な疾患で、本邦ではわれわれの調べたかぎりにおいて、現在まで87例報告されているにすぎない。今回われわれは肺扁平上皮癌を原発巣とし球部尿道海綿体より転移巣の出現した転移性陰茎腫瘍を経験したので、若干の文献の考察を加え報告する。

症 例

患者：70歳、男性

主訴：尿道痛

家族歴：父、胃癌、弟、前立腺癌

既往歴：十二指腸潰瘍、動脈硬化閉塞症

現病歴：1985年5月より左鎖骨上窩リンパ節の無痛性腫大に気づき、左前胸部圧迫感も出現したため、同

年7月30日当院胸部外科を受診した。レ線所見、左鎖骨上窩リンパ節生検により肺扁平上皮癌およびそのリンパ節転移と診断され、8月20日胸部外科入院となった。放射線治療中、尿道痛が出現したため、9月17日泌尿器科へ紹介された。

現症：身長 161 cm, 体重 46 kg, 栄養状態良好。胸腹部理学所見は十二指腸潰瘍の術創を心窩部に、リンパ節生検の術創を左鎖骨上窩に認める他に異常なし。表在リンパ節触知せず。直腸診にて前立腺に肥大、圧痛なく、表面平滑、左右対称、可動性良好。陰茎は球部尿道に硬結、圧痛を認めたが、陰茎海綿体には異常を認めなかった。

入院時検査成績（胸部外科入院時）：血液一般：赤血球 $325 \times 10^4/\text{mm}^3$, 白血球 $6,800/\text{mm}^3$, Hb 11.5 g/dl, Ht 35.0%, 血小板 $19.5 \times 10^4/\text{mm}^3$. 血液生化学：Na 140 mEq/l, K 3.9 mEq/l, Cl 108 mEq/l, P 3.5 mg/dl, Ca 7.2 mg/dl, BUN 14 mg/dl, Cr 0.7 mg/dl, GOT 47 IU/l, GPT 18 IU/l, LDH 190 IU/l,

* 現：和歌山赤十字病院泌尿器科

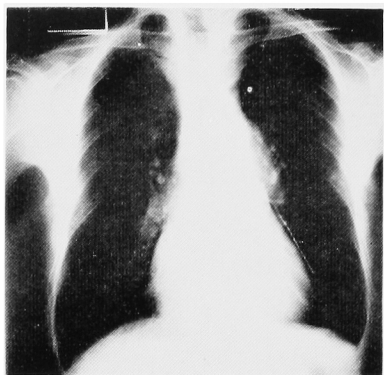


Fig. 1. Chest X-P shows a mass shadow at the left hilus, shift of the left bronchus and pleural effusion.

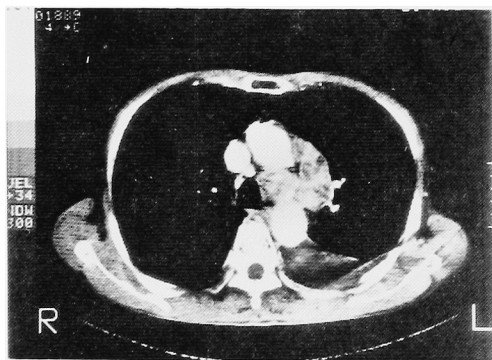


Fig. 2. CT scan shows a tumor at the left hilus and pleural effusion.

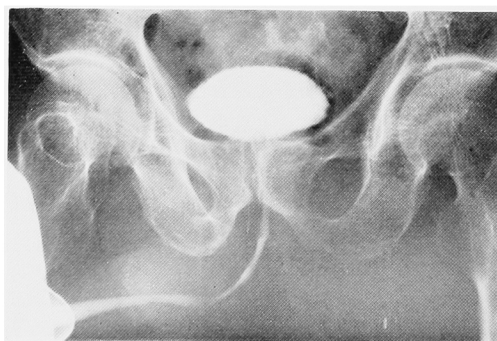


Fig. 3. Urethrogram shows stenosis and irregularity of the bulbous urethra.

Al-P 194 IU/l, TP 6.2 g/dl, CEA 248.7 ng/ml. 尿所見: 蛋白 (-), 糖 (-), 潜血反応 (±), pH 6. 沈査: 赤血球 10~12/hpf, 白血球 0~1/hpf, 上皮 1~2/hpf, 円柱 (-), 細菌 (-): 尿細胞診陰性 胸水細胞診陽性.

心電図: 異常所見なし

X線所見・胸部単純撮影にて左肺門部の腫瘍陰影, 左気管支の変位, 胸水による左肋骨横隔膜角の鈍化を



Fig. 4. Painful priapism.

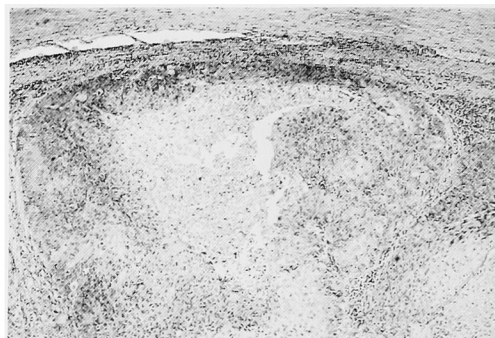


Fig. 5. Histology of the supraclavicular lymph node. Central necrosis and squamous cell carcinoma are demonstrated H&E, reduced from $\times 40$.

認めた (Fig. 1). 胸部 CT スキャンにても左肺門部の腫瘍, 胸水を認めた (Fig. 2). 尿道造影では球部尿道の狭窄および壁の不整を認めた (Fig. 3).

経過: 消炎剤, 抗生剤を投与するも症状の改善はみられず, やがて排尿困難も出現した. 尿道海綿体の硬結は次第に拡大し陰茎海綿体にまで広がり, 陰茎全体の腫大と彎曲, 変形を認めた (Fig. 4). X線所見および臨床経過より肺癌の陰茎転移を疑い11月14日陰茎海綿体の一部を楔状に生検した. 内部は凝血で充満しておりほとんど出血を認めなかった. 生検後も全身状態, 局所症状ともに悪化し, 亀頭部分は壊死状態となり激しい疼痛を訴えた. このため陰茎切断術を考慮したが, 11月19日癌性胸膜炎にて死亡した. なお剖検は施行しえなかった.

病理組織所見: 8月1日施行した鎖骨上窩リンパ節生検にて, リンパ節のほぼ全体にわたり浸潤し中心部に壊死を伴う扁平上皮癌細胞を認めた (Fig. 5). 陰茎海綿体においても洞内にリンパ節と同様の細胞が島ないし敷石状に充満しているのが認められた (Fig. 6). 以上の所見より肺扁平上皮癌の陰茎転移と診断された.

考 察

転移性陰茎腫瘍の報告は稀で欧米で約 200 例¹⁾。本邦では 1934 年齊藤²⁾の報告以来自験例を含めて 88 例にすぎない³⁻⁹⁾ (Table 1)。原発巣としては膀胱、ついで前立腺が多く両者で約 6 割を占めており、これらに直腸などの骨盤内臓器を加えると 8 割にものぼると報告されている²⁾。その理由として、Paquin ら¹⁰⁾、Abeshouse ら¹¹⁾、三品ら¹²⁾は転移経路の記述のなかで、骨盤内静脈叢より深部陰茎背静脈への retrograde venous metastasis, retrograde lymphatic metastasis, および direct invasion が有力な経路となるからであると述べている。これに対して骨盤外臓器よりの転移は少なく、肺原発のものは今回われわれの調べたかぎりでは自験例も含め本邦で 4 例にすぎない (Table 2)。肺原発腫瘍よりの転移経路としては動脈性転移が有力とされている。

臨床症状としては陰茎の硬結、強直、自発痛および圧痛が多くほぼ半数はいわゆる malignant priapism にいたるとされている³⁾。原発部位、組織型の如何にかかわらず転移巣の初発部位は陰茎海綿体がほとんどで、排尿困難、排尿痛は転移巣が尿道海綿体へ浸潤するまで出現しないのが一般である^{3, 10, 11)}。自験例では、まず尿道海綿体への転移により尿道痛、排尿困難が出現し、その 1 カ月後に陰茎海綿体へ浸潤していった点でもきわめて稀な症例と思われる。この症例における転移経路としては内陰部動脈より尿道球動脈を介したのが考えられるが、十分な生検および剖検を施行しえず確認できなかった。

なお転移性陰茎腫瘍は末期癌の全身転移の一徴候と

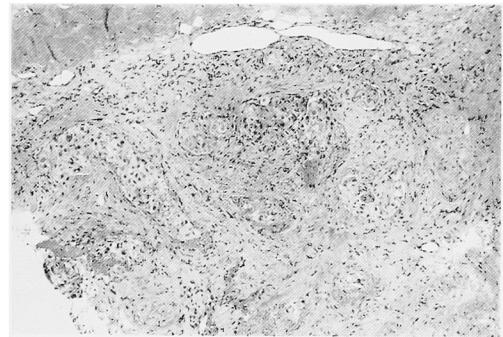


Fig. 6. Histology of the corpus cavernosum. Squamous cell carcinoma is demonstrated. H&E, reduced from $\times 40$.

Table 1. The primary site of metastatic penile tumor in Japan.

| | |
|------------------------|------------|
| Genitourinary tract | 69 (78.3%) |
| Bladder | 28 |
| Prostate | 21 |
| Kidney | 12 |
| Ureter | 4 |
| Testis | 2 |
| Urethra | 2 |
| Gastrointestinal tract | 12 (13.6%) |
| Rectum | 6 |
| Stomach | 4 |
| Esophagus | 2 |
| Respiratory tract | 5 (5.7%) |
| Lung | 4 |
| Nasal cavity | 1 |
| Others | 2 (2.3%) |
| Mediastinum | 2* |
| Total | 88 |

* Thymoma and Seminoma

Table 2. Metastatic penile tumors from lung cancer.

| 報告者 | 年齢 | 組織 | 主訴 | 治療 | 転帰 |
|--------------------------------|----|-----|--------|------|--------|
| 秋田・ほか ¹³⁾ (1979) | 43 | SCC | P. 硬結 | 陰茎切断 | 3 M. 死 |
| 薄井・ほか ⁵⁾ (1985) | 72 | AC | P. 尿閉 | 生検のみ | 1 M. 死 |
| 本多・ほか ⁸⁾ (1985) | 69 | SCC | P. 陰茎痛 | 陰茎切断 | 3 M. 死 |
| 自験例 | 70 | SCC | 尿道痛 | 生検のみ | 3 M. 死 |

SCC:squamous cell carcinoma, AC:adenocarcinoma, P:priapism, M:month

して出現することがほとんどであるため予後はきわめて悪く、ほとんどの症例が診断がついてから 6 カ月以内に死亡している。1 年以上の生存例は、われわれの調べたかぎりでは胃原発の 2 年 11 カ月¹⁴⁾、前立腺原発の 2 年 9 カ月¹⁵⁾、直腸原発の 1 年 3 カ月¹⁶⁾の 3 例にすぎない。治療としては激しい疼痛や malignant

priapism に対して全除精術や陰茎切断術が考慮される場合もあるが予後の改善は得られておらず、積極的な手術適応はないと考えられている¹⁷⁾。また放射線療法や化学療法も転移性陰茎腫瘍の性格から考えて効果は期待しにくく、実際に著効例の報告はほとんどみあたらない。肺原発のものも同様に、4 例とも陰茎に対

して生検もしくは対症療法にとどまり、3ヵ月以内に全例死亡している。

結 語

本邦4例目の肺を原発巣とする転移性陰茎腫瘍を経験したので報告した。本例は尿道海绵体より転移巣が出現し、尿道痛を主訴とした点でも稀な症例と思われた。

本邦88例の転移性陰茎腫瘍について若干の文献的考察を行なった。

なお、本症例は第114回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) Bosch PC, Forbes KA, Kollin J, Golji H and Miller JB: Secondary carcinoma of the penis. J Urol 132: 990~991, 1984
- 2) 斉藤弘徳: 各種臓器に転移を来し陰茎硬直を伴へる腎臓癌腫の1例。日泌尿会誌 23: 789~790, 1934
- 3) 奥村 哲・平澤精一・由井康雄・吉田和弘・西村泰司・秋元成太: Malignant priapism を呈した直腸原発転移性陰茎腫瘍の1例。泌尿紀要 30: 205~215, 1984
- 4) 小山雄三・中村 聡・石川博通・根本真一・武島仁: 前立腺癌の陰茎転移の1例。西日泌尿 47: 807~810, 1985
- 5) 薄井昭博・中本貴久・石野外志勝・福重 満: Malignant priapism を呈した転移性陰茎腫瘍の2例。西日泌尿 47: 843~846, 1985
- 6) 堀井康弘・吉川元祥・平尾佳彦・斉藤宗吾: 陰茎転移により発見された非睾丸性精上皮腫の1例。日泌尿会誌 76: 1275, 1985
- 7) 塚本拓司・大橋正和・山本秀伸・馬場志郎・中藺昌明・田崎 寛: 転移性陰茎腫瘍の2例。臨泌 39: 695~697, 1985
- 8) 本多正人・亀岡 博・三好 進・岩尾典男・水谷修太郎: 続発性陰茎腫瘍の2例。泌尿紀要 31: 2273~2279, 1985
- 9) 中内憲二・大石幸彦・小寺重行・和田鉄郎・鈴木正泰・町田豊平: 陰茎に転移を来した前立腺癌の1例。日泌尿会誌 77: 345, 1986
- 10) Paquin AJ and Roland SI: Secondary carcinoma of the penis. A review of the literature and a report of nine new cases. Cancer 9: 626~632, 1956
- 11) Abeshouse BS and Abeshouse GA: Metastatic tumors of the penis: A review of the literature and a report of two cases. J Urol 86: 99~112, 1961
- 12) 三品輝男・大江 宏・宮越国雄・村田庄平・大山朝弘・芦原 司・北村忠久: 睾丸腫瘍の陰茎転移例。日泌尿会誌 63: 57~67, 1971
- 13) 秋田康年・藤沢明生・羅 生奎・宮崎 重: 転移性陰茎海绵体腫瘍の1例。日泌尿会誌 70: 614, 1979
- 14) 上野 精・藤間弘行: 胃癌の陰茎、副睾丸転移の1例。臨泌 28: 449~453, 1974
- 15) 小松奎一・瀬野俊治: 陰茎に転移した前立腺癌の1例。臨泌 22: 371~376, 1968
- 16) 河路 清・関矢 偲: 転移性陰茎腫瘍の1例。日泌尿会誌 70: 365, 1979
- 17) 矢崎恒忠・高橋茂喜・石川 悟・小川由英・西浦弘・鈴木正明・加納勝利・北川龍一: 膀胱を原発とする転移性陰茎癌の3例と、これに対する術前抗癌剤動注および照射療法の経験。泌尿紀要 26: 881~888, 1980

(1986年8月4日受付)